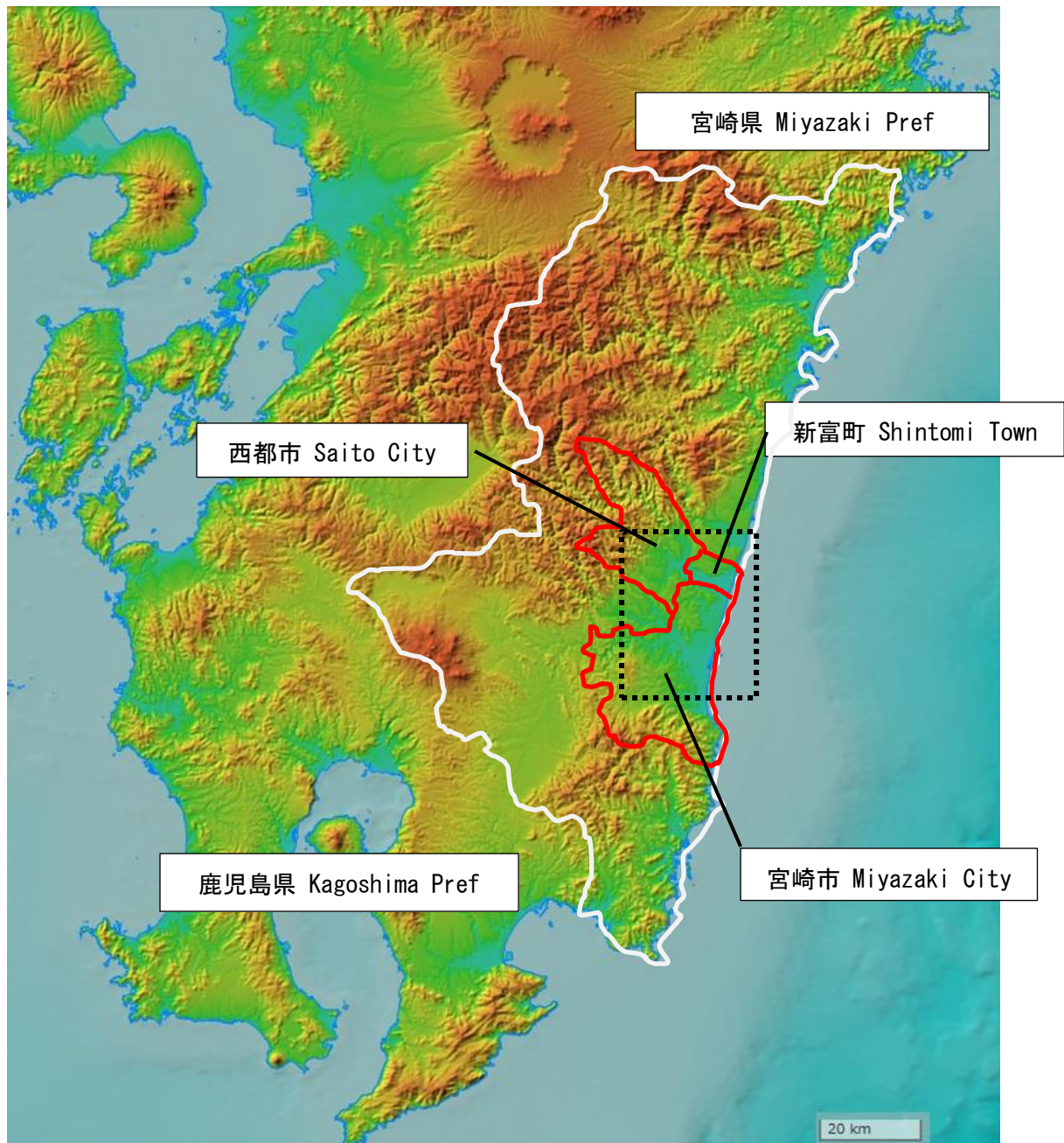


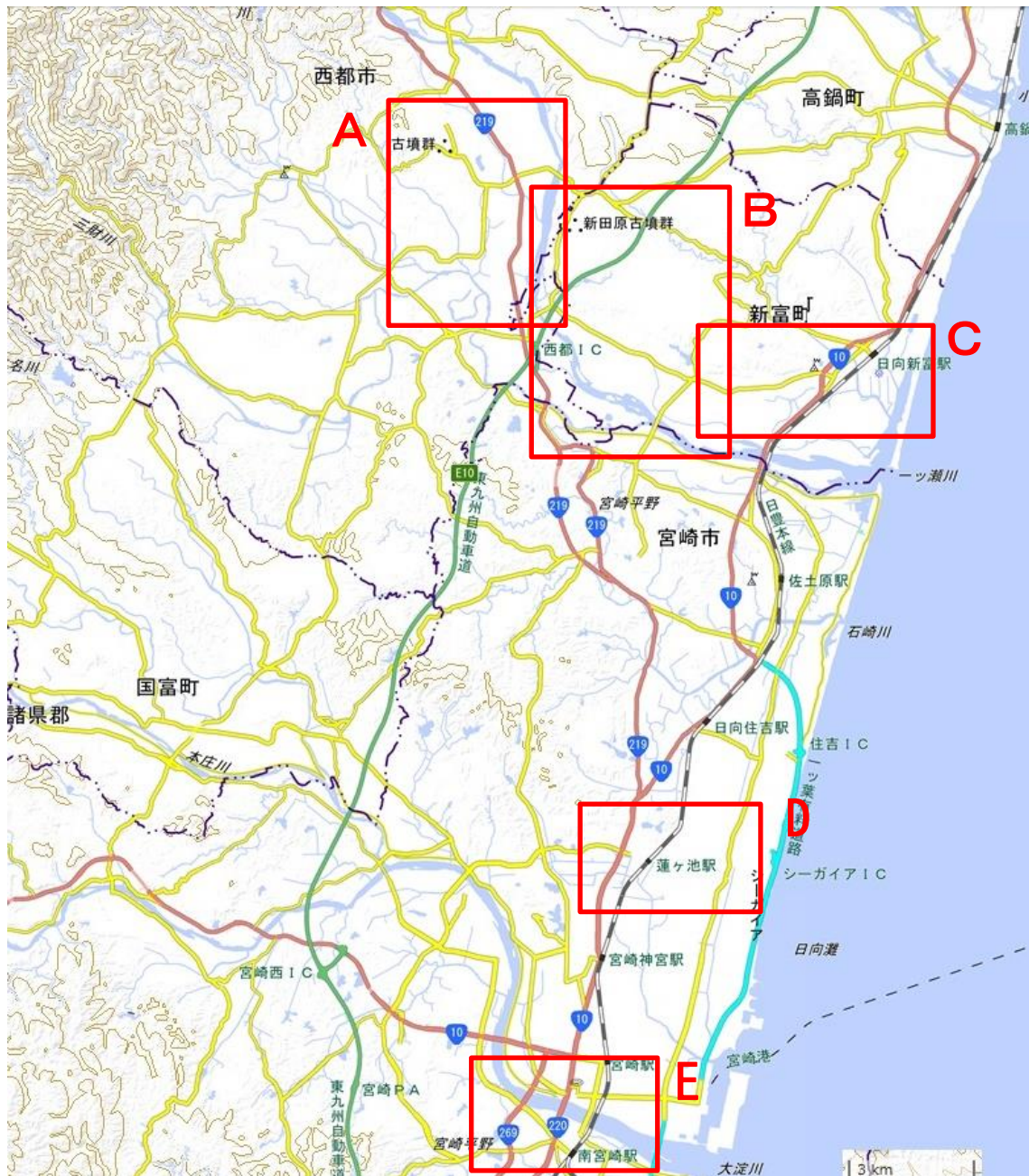
① 申請者	◎西都市、宮崎市、新富町	② タイプ	地域型 / シリアル型 A B C D E
③ タイトル			
古代人のモニュメント ―台地に絵を描く 南国宮崎の古墳景観―			
④ ストーリーの概要 (200字程度)			
<p>日本独自の形である前方後円墳という古墳が造られた時代。宮崎平野でも西都原古墳群を始め多くの古墳が造られました。列島各地であまた造られた古墳のある景観(風景)は、時の移ろいの中で様変わりしますが、宮崎平野には繁栄した当時に近い景観が今も保たれています。台地に広がる古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りには建築物がほとんどない景観は全国で唯一です。</p> <p>古墳を横から、上から斜めから。いろんな形と古墳のある景観を楽しんでみませんか？</p> <div data-bbox="949 504 1396 952">  <p>台地に広がる壮大なパノラマ</p> </div> <div data-bbox="167 996 901 1310">  <p>古墳が造られた当時に近い景観</p> </div> <div data-bbox="917 985 1388 1288">  <p>台地に描かれた模様のような古墳の群れ</p> </div> <div data-bbox="167 1355 901 1579">  <p>雲間から古墳に射し込む光</p> </div> <div data-bbox="917 1344 1388 1568">  <p>古墳群の夕暮れ</p> </div>			
⑤ 担当者連絡先			
担当者氏名	西都市教育委員会社会教育課 課長補佐 兒玉孝一		
電 話	0983-43-0846	FAX	0983-43-0399
E-mail	kodamak@saito-city.jp		
住 所	宮崎県西都市聖陵町2丁目1番地		

市町村の位置図（地図等）

【宮崎県西都市・新富町・宮崎市】

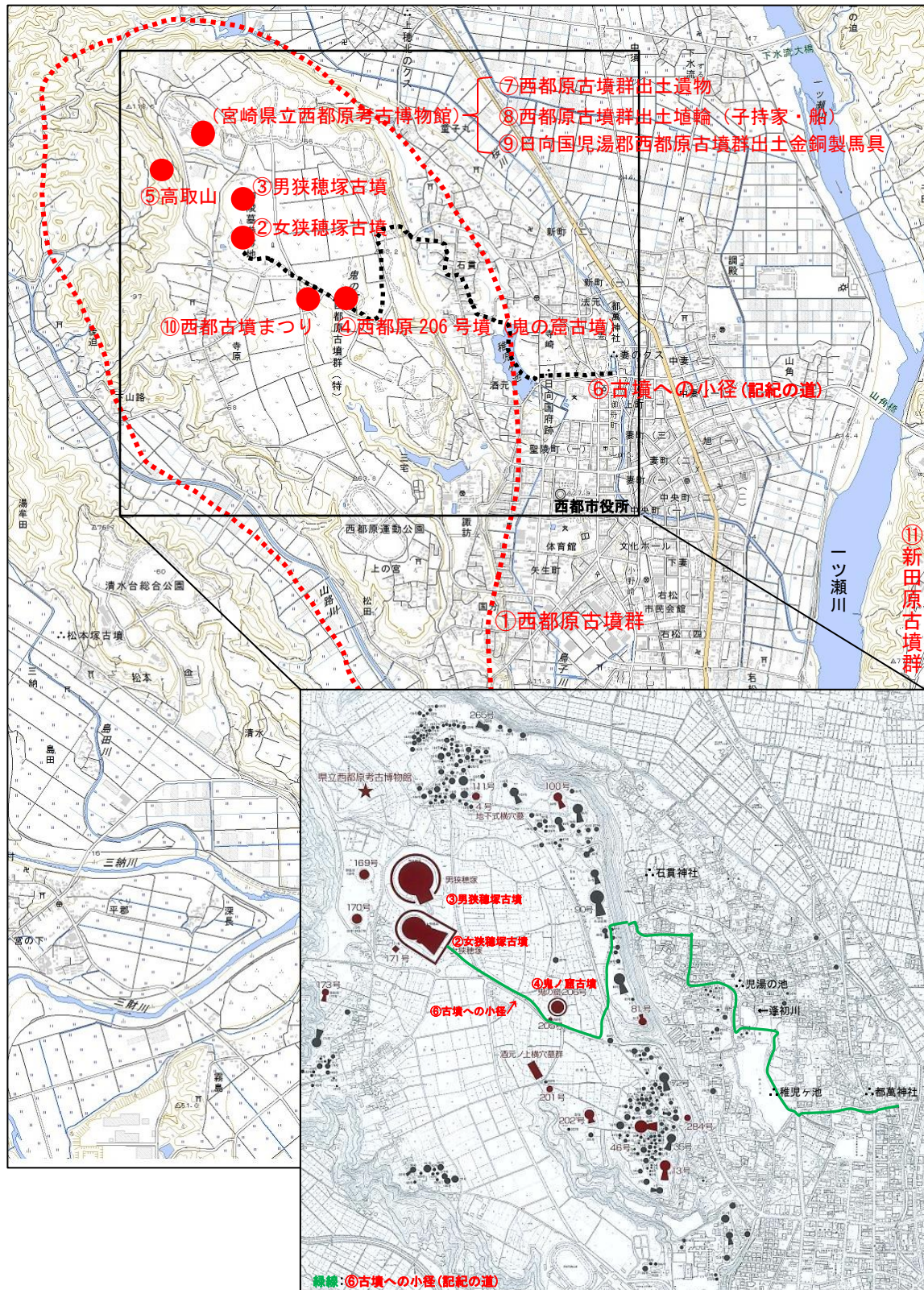


構成文化財の位置図(区割り図)



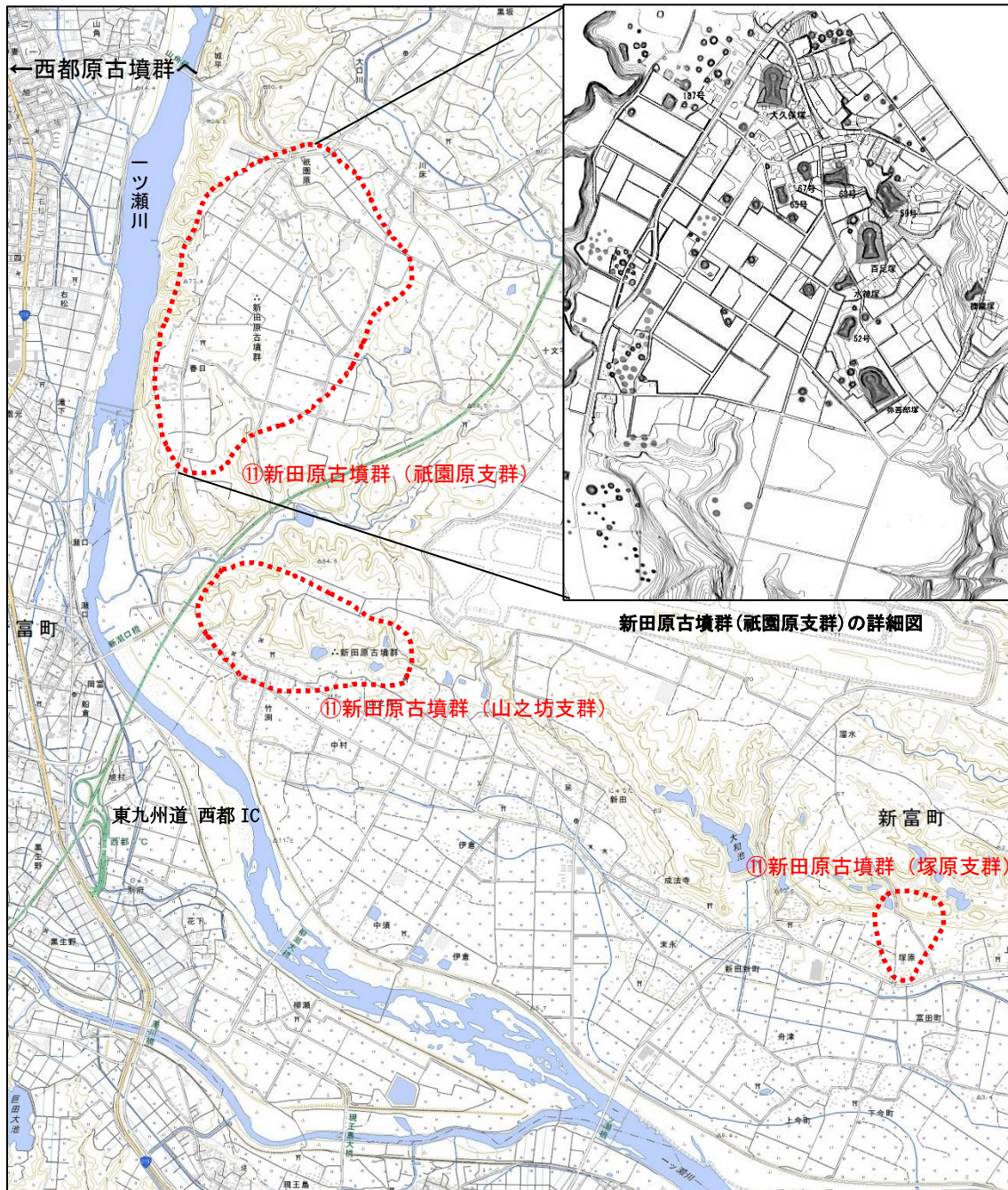
構成文化財の位置図(詳細図)

A 西都市(西都原古墳群ほか)



西都原古墳群主要部分の詳細図

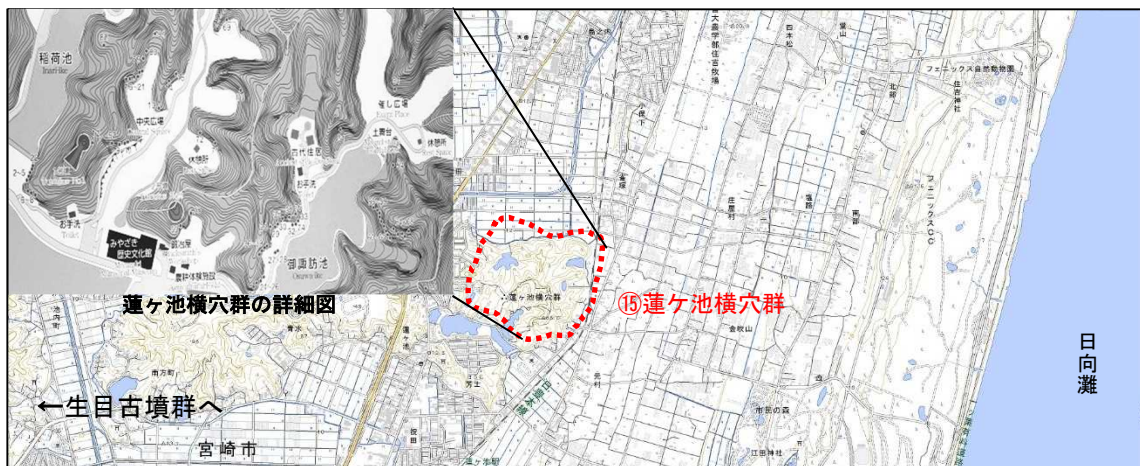
B 新富町(新田原古墳群)



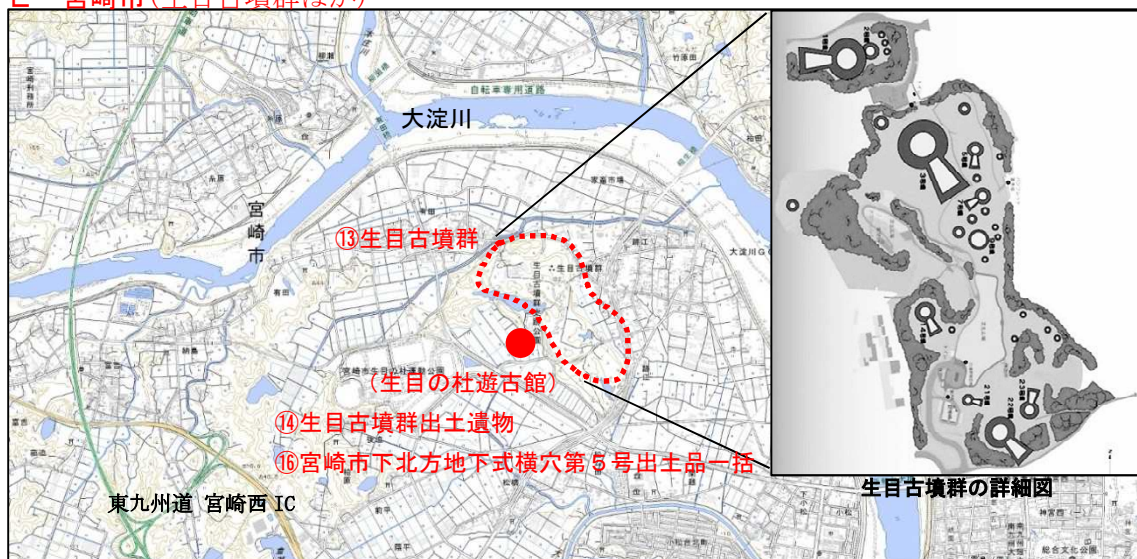
C 新富町(新田原古墳群出土の埴輪)



D 宮崎市(蓮ヶ池横穴群)



E 宮崎市(生目古墳群ほか)



ストーリー

【「古墳」の世紀】

紀元3世紀から7世紀にかけての日本列島では、土を盛り上げたお墓“古墳”を造る文化が各地で栄えました。上から見た形が鍵穴のような「前方後円墳」、丸い「円墳」、四角の「方墳」など、その数なんと約16万基以上。当時の人々にとっての古墳とは、人物の地位や実力を大きさや形で表現した、いわば記念碑(モニュメント)でもありました。

そうした古墳を全て人力で築き上げた古墳時代とは、日本の歴史上初めての「土木工事ラッシュ」の世紀だったのです。

列島各地の古墳は、長い時の経過とともに、その多くは損なわれました。しかし、唯一、南国の宮崎平野の台地には、古墳の姿形が損なわれることなく、古墳の周りに建築物のほとんどない広大な景観が広がっています。そうした古墳景観の世界をたどってみましょう。

【造られた当時に近い古墳景観 — 西都原古墳群 — 】



土星のような形の古墳

西都原古墳群は宮崎平野を流れる一ツ瀬川西岸の台地上にあり、東西2.6km・南北4.2kmの範囲に300基以上が分布する全国屈指の大古墳群です。その特徴は、なんといっても古墳の形がよく残され、木々も生い茂ることなく、およそ1400年以上前の、古墳が造られた頃に最も近い景観が今も保たれていることです。

ここには、前方後円墳が台地の縁に沿って立ち並び、前方後円墳の間には円墳がギッシリとすき間なく造られています。台地の小高い丘(高取山)の麓には、ひととき大きな古墳が2つ。女狭穂塚古墳と男狭穂塚古墳は圧倒的な威容をたたえ、南九州の雄として君臨する勢力の大きさを表しています。

また、土星のような形の「鬼の窟 古墳」は円墳の周りに土塁が巡る全国的にも珍しい形で、岩で出来た石室がぽっかりと口を開け、その内部の空間に入ることができます。さらに、数は少ないですが方墳も造られました。

豊かな自然環境のもと、交通の要衝であった西都原では、約400年の歳月をかけて古墳づくりに励みました。その結果、青い空と緑の山々を背景にした壮大なパノラマの古墳景観が生まれたのです。

そこは、見渡すかぎり広がるたくさんの古墳という別世界。時間が止まったような空間を訪れる誰もが古代の人々になったような錯覚に陥ることでしょう。朝日夕日に輝き月夜の下で照らされる古墳は、昼間とは趣が異なって神秘的な雰囲気が漂います。

小高い古墳の頂きや高取山の展望台に立てば、大きな鍵穴の間に無数の小さな水玉が見え、それはまるで台地に絵を描いたかのようです。秋冬の季節は古墳の色が緑から茶や赤色などになるので、春夏の頃とはひと味違う光景になります。



古墳が造られた当時に近い景観(西都原古墳群)



台地に描かれた模様のような古墳の群れ

【西都原古墳群の周辺に広がる様々な古墳景観】

西都原古墳群の他にも、建築物が周りにない古墳群が広がっています。

新田原古墳群 にゅうたばる 一ツ瀬川東部の台地上にあり、見渡す限りの広大な田畑の中に、水神塚すいじん、機織塚はたおり、百足塚むかでづかなどと名付けられた前方後円墳をはじめ、円墳や方墳が浮かぶように点在しています。

古墳時代の人々が造った古墳と、後世の人々が生み出した田畑が共にある景観は、古墳の存在を壊さずに開墾されたことで形作られましたが、そこには現在に続く古墳へ畏敬の念が根底にあったのです。また、百足塚古墳から出土した古墳時代の暮らしぶりをイメージさせるユーモラスな埴輪も見ることができます。

生目古墳群 いきめ 大淀川河畔の小高い丘陵に広がるこんもりとした木立の群れ。実は、前方後円墳や円墳の今の姿です。その一角に、ひとときわ輝く前方後円墳が一つ。白い石で表面を覆った当時の姿に復元されたもので、その頂きに立てば、昔日の威容と造形美、古墳造りのエネルギーが体感できます。

生目古墳群には、古墳が造られてから悠久の時間を感じさせる森と化した古墳と当時の姿に復元された古墳が対照的に体感できる景観が備わっています。

蓮ヶ池横穴群 はすがいけ 海辺に近い蓮の花咲く池のほとりにある、列島最南端の横穴墓です。丘陵の固い岩盤に横穴を掘って造ったお墓で、造り終わった後は、丘陵全体が照葉樹や落葉広葉樹の森林となり、忘れ去られた様にひっそりとたたずむ景観になりました。今も自然のままに時を重ねています。

【「古墳」の世紀を体感する】

多くの古墳があることで、女狭穂塚古墳に埋葬されるとされる木花咲耶姫このはなさくやひめの話を始め、古墳に関わる数々の神話や伝説、祭事などが生まれました。

また、生目古墳群（4世紀）→西都原古墳群（5世紀）→新田原古墳群（6世紀）、さらに蓮ヶ池横穴墓群（6～7世紀）へと繁栄を極めた順に巡れば、南九州の豪族達の栄枯盛衰を感じることができ、副葬品や埴輪といった古墳からの出土品を鑑賞することで、古墳時代の生活を実感できます。

このような古墳の楽しみ方ができるのは、宮崎平野の古墳群だけです。さあ、ゆっくりと古墳探訪のひとときを過ごしてみませんか。



田園風景の中の新田原古墳群



ユーモラスな埴輪たち（新田原古墳群）



白垂に輝く古墳（生目古墳群）



自然と一体化した横穴墓群（蓮ヶ池横穴群）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称 (※1)	指定等の状況 (※2)	ストーリーの中の位置づけ (※3)	文化財の所在地 (※4)
①	さいとばる 西都原古墳群	特別史跡	ストーリーの主題となる古墳景観の中核となる古墳群で、300 基を超える古墳がある。古墳が造られた当時に近い景観が現在も保たれている全国唯一の史跡である。	西都市
②	めさほづか 女狭穂塚古墳	未指定	陵墓参考地の一つで、西都原古墳群における重要な構成要素。九州一の大きさ(墳長 176.3m)の前方後円墳で古墳時代中期(5 世紀)における西都原古墳群の繁栄を端的に物語る古墳。	西都市
③	おさほづか 男狭穂塚古墳	未指定	陵墓参考地の一つで、西都原古墳群における重要な構成要素。帆立貝の平面形を有する古墳としては全国一の大きさ(墳長 176m)で、古墳時代中期(5 世紀)における西都原古墳群の繁栄を端的に物語る古墳。	西都市
④	西都原古墳群第 206 号墳 (おに いわや 鬼の窟 古墳)	特別史跡	西都原古墳群最後の首長墓。古墳時代終末期に造られた直径 36m の円墳で、二重の濠と高い土塁が特徴。埋葬施設は巨石積みの横穴式石室(内部見学可能)である。古墳周辺は四季折々の花々が咲き乱れる。	西都市
⑤	たかとりやま 高取山	未指定	西都原古墳群の位置する台地の最高所にある小高い丘(標高 150m)。展望台からは古墳群を一望でき、古墳景観を体感できる重要な名勝地。	西都市
⑥	古墳への小径(記紀の道)	未指定	女狭穂塚古墳・男狭穂塚古墳と市街地(都萬神社等)を結ぶ小径(約 4 km)でストーリーの主題を補完するもの。小径沿いには、古墳景観から生じた神話伝承に関する旧跡名勝や古墳への祭事を担う神社が立ち並ぶ。	西都市
⑦	西都原古墳群出土遺物	未指定	ストーリーの中核である西都原古墳群から出土した遺物群。三角縁神獣鏡や短甲に代表される宝器や武器・武具、装飾品等の副葬品は、西都原古墳群の特徴のみならず、古墳時代の歴史を具体的に可視化できる資料である。	西都市
⑧	西都原古墳群出土埴輪 子持家・船	国重文	ストーリーを構成する西都原古墳群の第 170 号墳から出土した埴輪群。5 軒の家が組み合う「子持ち家」は日本唯一の埴輪で、「船」は外洋の航海で交易する民のシンボルである。	西都市(複製品) ※現品は東京都台東区
⑨	日向国児湯郡西都原古墳 出土金銅製馬具	国宝	ストーリーを構成する西都原古墳群周辺で出土した遺物で、朝鮮半島からもたらされた一揃いの馬具である。古墳時代後期(6 世紀)における東アジアを舞台とした外交や交流を具体的に物語る資料。	西都市(同素材の復元品) ※現品は東京都世田谷区

⑩	西都古墳まつり	未指定	室町時代にさかのぼる「山陵祭」や「御陵祭」が原型となるお祭りで、西都原古墳群と人々のつながりを今に伝える催事である。毎年 11 月上旬の 2 日間に開催され、陵墓参考地の一般参拝も行われる。	西都市
⑪	<small>にゆうたばる</small> 新田原古墳群	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。207 基の古墳がある。古墳時代後期(6 世紀)の頃は南九州でも最大勢力を誇った。	新富町
⑫	新田原古墳群第 58 号墳 (百足塚古墳) 出土埴輪	未指定	ストーリーを構成する新田原古墳群の特徴を端的に示す出土品。埴丘に並べられた人物・動物・家・太鼓等の埴輪は西日本有数の質・量を誇り、畿内王権との関係性のなかで花開いた南九州の古墳文化の到達点を示す。	新富町
⑬	<small>いきめ</small> 生目古墳群	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。50 基の古墳がある。古墳時代前期(4 世紀)においては九州最大の規模を誇った。	宮崎市
⑭	生目古墳群出土遺物	未指定	ストーリーを構成する生目古墳群の特徴を端的に示す出土品。例えば、第 5 号墳出土の埴輪は胴体が筒のような形をした壺形埴輪で、全国的に珍しい独特の形状である。	宮崎市
⑮	<small>はすがいけ</small> 蓮ヶ池横穴墓群	国指定	ストーリーの中核となる西都原古墳群の周辺に広がる古墳景観エリアの一つ。横穴墓(家族の墓)は前方後円墳と並ぶ日本固有の墳墓である。古墳時代後期～終末期(6～7 世紀)にかけて約 80 基が山の斜面に掘られた。	宮崎市
⑯	<small>したきたかたち か し きよこあな</small> 宮崎市下北方地下式横穴 第 5 号出土品一括	県指定	ストーリーの主題である古墳景観に関連して、古墳に葬られた南九州の豪族達のいでたちとその生活ぶりを具体的に可視化できる資料。古墳時代中期(5 世紀)の地下式横穴墓から出土した副葬品で、武器・武具や生活用具および服飾品等で構成。古墳時代史が凝縮された資料でもある。	宮崎市

(※ 1) 文化財の名称には適宜振り仮名を付けること。

(※ 2) 指定・未指定の別、文化財の分類を記載すること(例：国史跡、国重文(工芸品)、県史跡、県有形、市無形等)。

(※ 3) 各構成文化財について、ストーリーとの関連を簡潔に記載すること(単に文化財の説明にならないように注意すること)。

(※ 4) ストーリーのタイプがシリアル型の場合のみ、市町村名を記載すること(複数の都道府県にまたがる場合は都道府県名もあわせて記載すること)。

構成文化財の写真一覧(1)

【①^{さいとばる}西都原古墳群】



① -1 南国の宮崎平野の台地に広がる古墳群のパノラマ



① -3 台地の縁にならぶ前方後円墳



① -2 古墳が造られた当時に近い景観(冬)



① -4 丸い形の古墳(円墳)



① -5 四角い形の古墳(方墳)

構成文化財の写真一覧(2)



① -6 横から見た前方後円墳



① -7 古墳の中(埋葬施設)を探索



④ -1 土星のような古墳(鬼の^{いわや}窟古墳)



④-2 ぽっかりと口を開ける古墳内部への入口



① -8
台地に描かれた模様
のような古墳の群れ

構成文化財の写真一覧(3)



① -9 古墳群の夕暮れ
(春)



① -10 雲間から古墳に差し込む光(初夏)



① -11
赤や黄色に染まる古墳
(晩秋)



① -12 前方後円墳(画面中央)と群集する円墳群(冬)

構成文化財の写真一覧(4)



神話や伝説・祭事が生まれた森厳な雰囲気巨大古墳

②女狭穂塚古墳(画面左)・③男狭穂塚古墳(画面右)



⑤ たかとりやま 高取山 (初夏)



⑥- 1 古墳への小径(記紀の道)



⑥-2 古墳への小径(道端にある児湯の池)



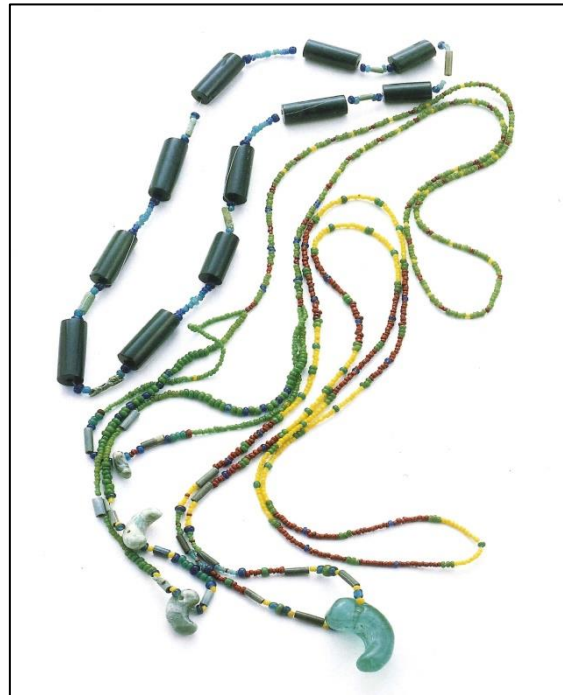
⑥-3 古墳への小径
(女狭穂塚古墳とゆかりの深い都萬神社)

構成文化財の写真一覧(5)

【⑦ 西都原古墳群出土遺物】



⑦ -1 複雑な文様が施された青銅製の鏡



⑦ -2 色彩豊かなガラスと石の首飾り



⑦ -3 完全な形で残る鉄製のよろい



⑧ 西都原古墳群出土埴輪 こもちいえ 子持家



⑨ 日向国児湯郡西都原古墳群出土
金銅製馬具(写真は鞍金具)



⑩ 西都古墳まつり

構成文化財の写真一覧(6)

【^{にゅうたばる}⑪新田原古墳群】



⑪-1 田園風景に広がる古墳のパノラマ



⑪-2 精美な形の前方後円墳(百足塚古墳)^{むかてづか}



⑪-3 緑の畑地に浮かぶ前方後円墳

【⑫新田原古墳群出土遺物】



⑫ 表情豊かな人物の埴輪(百足塚古墳)



構成文化財の写真一覧(7)

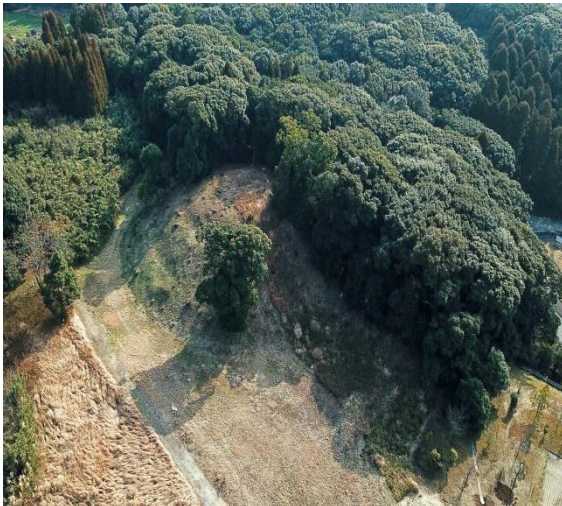
【⑬^{いきめ}生目古墳群】



⑬ -1 築造当時の姿に復元された前方後円墳



⑬ -2 丘陵の自然に包まれた古墳群

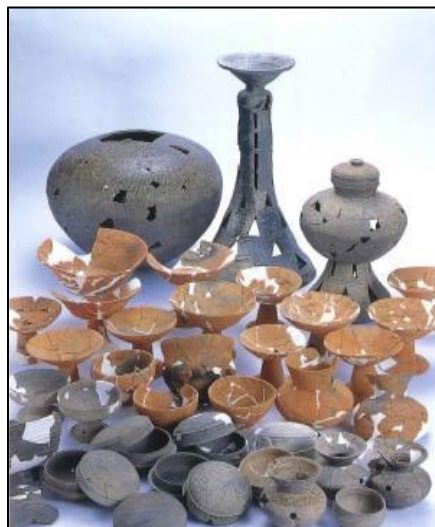


⑬ -3 森と化した前方後円墳

【⑭生目古墳群出土遺物】



⑭ -1 独特な形の埴輪



⑭ -2 古墳に供えられた土器

構成文化財の写真一覧(8)

【^{はすがいけ}⑮蓮ヶ池横穴群】



⑮ -1 自然と一体化した横穴の群れ



⑮-2 岩盤をくり抜いた横穴の内部から入口を見る



⑮-3 横穴群の前で咲き誇る蓮の花

【⑯宮崎市下北方地下式横穴第5号出土品】



⑯-1 金で作られた耳飾り



⑯-2 鉄製の刀ややじり鑢など



⑯-3 古墳時代の生活を偲ばせる豪華な副葬品

日本遺産を通じた地域活性化計画

(1) 将来像（ビジョン）

宮崎平野の台地に広がる数々の古墳群は、日本の誇るべき歴史的・文化的な景観をいまに伝える。それは、長い年月にわたり受け継がれた古墳に対する畏敬の念の賜物であるが、こうした古墳景観が全国的にも希少な価値であることを、国内外のみならず、宮崎県内でも十分に認識されていない。

構成市町である西都市・宮崎市・新富町では、それぞれの長期総合計画において古墳群を地域資源と位置づけ、長期的な展望を持って各種施策を実施しているところだが、古墳という文化財そのものに光を当てた施策は、更に発展させることができると認識している。

そこで、西都原古墳群を中核とする各古墳群を日本遺産としてブランド化し、地域活性化に資する仕組みの創出と各種施策を展開することで、文化財保護・継承の意識が向上するとともに、新たな観光客層の掘り起こしとリピーターの獲得等が観光振興、ひいては地場産品（農畜産品等）の販売拡大につながる等、日本遺産を通じた「古墳のあるまち」が活性化していく将来像を描くものである。

(2) 地域活性化のための取組の概要

地域活性化の取組として、日本遺産としての魅力を磨き上げるため、下記の事業を実施し、環境整備・情報発信・活用イベント・観光連携を発展させていく。

1 商品開発可能性調査事業（スタート事業：調査研究）

ストーリーテーマの中核をなす西都原古墳群は県内有数の観光地である。しかしながら、観光客の多くは古墳景観よりは四季折々の花々を楽しむ目的で訪れるのが現状である。よって、古墳とその景観は歴史的建造物においても特長的なコンテンツであることを踏まえて、既存の観光客層（団体客・家族連れ等）に加えて古墳に興味関心を抱く観光客層（個人やグループ等）の掘り起こしを視野に、日本遺産のストーリーに則った各々の取組との連携が可能なキャラクターグッズやツアーパッケージを開発するため、事前にそれらを扱う事業者や扱う際の効果的な運用を検討する。

具体的には、古墳や埴輪などのキーホルダーなどのキャラクターグッズなどを制作した際にどのような販売方法があるか、取り扱い業者があるか、また、クラウドファンディングでの返礼品としての有効性などを検討する。ツアーは国内の博物館友の会等の依頼を受けて既にツアーを行っている事業者の動向を調査するとともに、日本遺産ブランドという誘客力の活用と隣接地域と周遊化による相乗効果に着目して、例えば高千穂・日向地域といった隣接する有力な観光地と連携したツアー企画など、滞在型の観光に着目した戦略性のある商品化の可能性を分析する。

2 情報基盤の整備事業（ブランド化・情報発信）

事業の初年度にあたり、サイン、景観映像、パンフレット、HPの作成および観光・文化資源への誘導ナビゲーションシステム等との連携により、団体客のみならず個人または少人数をユニットとする観光客もターゲットとした誘客の仕掛けとする。さらに、各観光機関による既設ホームページとの相互リンク化等により、日本遺産ブランドのアピール力を高めた情報基盤を整備する。こうした情報発信力の強化によって、日本遺産ブランドの魅力や認知度並びに来訪者への利便性といった誘客力が向上し、観光客数の増加等につながる。

3 新たなものがたりを創出する事業（普及啓発）

当時の様子が想像しにくいテーマにおいては、国内でも海外でも様々なイメージ戦略を行っている。商品開発可能性調査の分析結果を踏まえ、イメージ戦略をたて、キャラクターグッズ、古墳絵本の製作、ミュージカル連携公演など、古墳をテーマとした新たなものがたりを創出し、新たな興味関心を呼ぶ事業を展開する。この事業によって、ストーリーテーマを具体的にイメージしやすくなり、地域の文化への誇りを高め、親しみやすい観光戦略と誘客力の向上につながる。また、グッズの開発・製作等やクラウドファンディングの取組は持続可能な事業体制の安定財源となり、協議会組織の将来的な自立（DMO化による民間主導型の運営）につながる。

4 ソフト的な環境基盤を整備する事業（普及啓発・人材育成）

ツアーパッケージの開発、スタンプラリー＆ウォークラリー、まるで絵を描いたような日本一の古墳景観を空から見る機会として、熱気球体験を実施するなど、観光客が現地を楽しめるソフト的な環境基盤を整備する。これらの情報発信は各機関による観光振興事業（観光誘致やPR事業等）も活用して誘客の営業力向上を図る。あわせて、ボランティア養成講座や日本遺産シンポジウムを開催して人材育成を図ることで、地域全体で観光客をおもてなしする体制が充実し、観光客数の増加と地域コミュニティの活性化等につながる。

5 それぞれが連携した事業展開

情報基盤、新たなものがたり、ソフト的な環境基盤の3点にわたって事業を展開し、別項に示した協議会組織と運営方法のもとで、各事業が有機的な連携を進めることで、継続可能な事業としていく。文化財保護・観光・地域振興部局所管の既存事業とは、連携や共同事業化等を推進することで相乗効果を狙う。

◆単独事業や他補助事業を活用した現在の取組み

◆環境整備（ハード）	◆情報発信	◆活用イベント	◆観光連携
①県内遺跡発掘調査（西都原調査） ②市内遺跡発掘調査（生目調査） ③町内遺跡発掘調査（新田原調査） ④西都原古墳群保存整備事業 ⑤生目古墳群史跡公園整備事業 ⑥連ヶ池横穴墓群保存整備事業 ⑦新田原古墳群保存整備事業	①記紀編さん1300年記念事業 ②ひなた文化資源発信事業 ③みやざきの古墳魅力向上事業 ④デジタルミュージアム構築事業 ⑤「神話のふるさとみやざき」魅力推進 ⑥博物館がやってくる！文化財活用 ⑦小学生向け副読本作成業務 ⑧古墳講座開催事業	①みやざきサイクルツーリズム事業 ②魅力ある観光地づくり推進事業 ③西都原花づくり事業 ④西都古墳まつり ⑤新田原古墳群古墳祭 ⑥国民文化祭宮崎大会	①持続可能な地域づくり応援事業 ②市町村連携支援交付金交付事業 ③地域資源ブランド強化促進事業 ④共同観光宣伝事業 ⑤東アジア等インバウンド推進事業 ⑥東九州自動車道観光誘客事業 ⑦教育旅行誘致推進事業 ⑧「日本のひなた宮崎県」誘客事業

◆当初3カ年間の取組み（日本遺産魅力発信推進事業） ～この事業を取り組むことにより、事業をより活性化させる！～

◆スタート事業（調査研究）		
①こふんをテーマとした商品開発可能性調査（マスコットやツアーなどの内容や販路を検討し、テーマその他の取組みとマッチングするよう調査分析する。）		
◆情報基盤の整備事業 （公開のための整備・ブランド化・情報発信）	◆新たな物語を創出する事業 （普及啓発）	◆ソフト的な環境基盤を整備する事業 （普及啓発・人材育成）
②日本遺産サイン構築事業 ③古墳景観映像の製作 ④パンフレット作成 ⑤「古墳の旅」 ホームページ作成	⑥キャラクターグッズの開発 ⑦古墳絵本の製作 ⑧ミュージカル連携公演	⑨ツアーパッケージの開発 ⑩スタンプラリー＆ウォークラリー ⑪ボランティア養成講座 ⑫日本遺産シンポジウム ⑬日本一の古墳景観を空から見る

◆4年目以降の取組み ～単独事業や他補助事業を活用した事業の継続、そして発展～

◆環境整備（ハード）	◆情報発信	◆活用イベント	◆観光連携
サイン類の統一した利用により、よりイメージづくりを推進し、史跡整備をより積極的にすすめる。	関係機関のホームページや関連事業等との連携し、HPやパンフレットで情報発信力を高めて継続していく。	ミュージカル連携公演や古墳絵本の活用、キャラクターグッズの活用推進シンポジウム開催継続	各種観光振興事業と連携したツアーウォークラリー等の企画や支援。ボランティアガイドの育成

地域活性化のための取組の概念図

（５）地域活性化計画における目標と期待される効果

設定目標Ⅰ：	日本遺産を活用した集客・活性化			
計画評価指標：	観光客入込み数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	構成市町全体の観光入込客数			
目標値：	平成 28 年度	7,943,776 人	⇒	平成 35 年度 8,341,000 人
設定根拠：	平成28年度における宮崎市、西都市、新富町への観光客入込み数の実績に対し、平成35年度で5%増加させた人数（概数）。			
設定目標Ⅱ：	日本遺産を核としたコミュニティの再生・活性化			
計画評価指標：	地域の文化に誇りを感じる住民の割合（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	宮崎県が実施する宮崎県県民意識調査で、「本県の神話や伝承、神楽、史跡など歴史的文化的資源に関心がある、少し関心がある」と答えた者の割合			
目標値：	平成 28 年度	62 %	⇒	平成 35 年度 72 %
設定根拠：	平成28年度における県民意識調査の実績を基準とし、平成35年度で10%増加させた場合の%			
設定目標Ⅲ：	日本遺産の関する取組を行うための持続可能な体制の維持・確立			
計画評価指標：	日本遺産関連で開発された商品・サービス数（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	日本遺産関連商品の権利利用やツアー利用回数の合計			
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 35 年度 150 %
設定根拠：	平成31年度の合計数を100%とした場合の平成35年度の割合（%）			
設定目標Ⅳ：	その他			
計画評価指標：	クラウドファンディングなどによる自主財源収益額の確保（具体的な指標は次のとおり）			
具体的な指標：	クラウドファンディングなどによって得られた自主財源収益額			
目標値：	平成 32 年度	100 %	⇒	平成 35 年度 100 %
設定根拠：	平成32年度の商品・サービス数（又は金額）を100%とした場合の平成35年度の割合を維持する。			

様式4（別紙②）

（6）日本遺産魅力発信推進事業

事業①：	古墳をテーマとした商品開発可能性調査（スタート事業・調査研究）										
事業区分：	調査研究				事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度					
補助金額：	平成30年度：		5,000千円		平成31年度：		0千円		平成32年度：		0千円
（積算）			(5,000千円×1件)								
事業概要：	日本遺産のストーリーに合致し、それぞれの取組との連携が可能なキャラクターグッズやツアーパッケージを開発した際に、それらを取り扱う事業者や、その運用の方法について事前に調査研究する。										
評価指標区分：	嗜好性調査を踏まえた商品開発数								（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	キャラクターグッズやパッケージツアーの開発数										
目標値：	平成 30 年度		0 個		⇒		平成 35 年度		5 個		
事業②：	日本遺産サイン構築（情報基盤の整備事業）										
事業区分：	公開活用のための整備				事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 31 年度					
補助金額：	平成30年度：		10,000千円		平成31年度：		0千円		平成32年度：		0千円
（積算）			40箇所×25万円＝10,000千円								
事業概要：	日本遺産の構成文化財にその普及と理解促進に資するため、案内板の新設や既存の案内板を利用した掲示を行う。その際にQRコードを入れて、HP等との連動により説明が可能なシステムを構築する。										
評価指標区分：	観光客の満足度								（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	宮崎県が実施する宮崎県県民意識調査で、「本県の神話や伝承、神楽、史跡など歴史的文化的資源に関心がある、少し関心がある」と答えた者の割合										
目標値：	平成 28 年度		62 %		⇒		平成 35 年度		72 %		
事業③：	古墳景観映像の製作（情報基盤の整備事業）										
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度					
補助金額：	平成30年度：		9,000千円		平成31年度：		0千円		平成32年度：		0千円
（積算）			(9000千円×1式＝9,000千円)								
事業概要：	効果的な誘客を行うため、美しい映像作品を作成するとともに、古墳を造る様子が目の前に広がり、まるで古墳時代にタイムスリップしたかのような画像を楽しむことができるようにする。										
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）								（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産PR動画再生回数										
目標値：	平成 30 年度		0 回		⇒		平成 34 年度		10,000 回		
事業④：	パンフレット・のぼり旗・卓上旗作成（情報基盤の整備事業）										
事業区分：	情報発信				事業期間：	平成 30 年度 ～ 平成 年度					
補助金額：	平成30年度：		8,000千円		平成31年度：		0千円		平成31年度：		0千円
（積算）			パンフ275円×20,000枚 のぼり旗1,500円×1,000本 卓上旗2,000円×1,000個								
事業概要：	日本遺産の魅力・見どころなどを掲載したパンフレットを県内外の公共機関や観光客の往来の多い箇所で配布する。また、のぼり旗・卓上旗を設置することで、日本遺産を宣伝する。										
評価指標区分：	補助事業終了後のパンフレット等コンテンツ増刷数（自主事業分）								（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	自主事業でパンフレット等のコンテンツを増数する。										
目標値：	平成 30 年度		20,000 枚		⇒		平成 35 年度		20,000 枚		

事業⑤：	「古墳の旅」ホームページ作成（情報基盤整備）					
事業区分：	情報発信		事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 31 年度	
補助金額：	平成30年度：	3,000千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
（積算）	(3,000千円×1式=3,000千円)					
事業概要：	「古墳景観映像の製作事業」で製作した映像等をもとに、日本遺産専用ホームページを作成する。加えて、既存の観光・文化財関連のホームページ（別紙③(7)その他の事業⑩）や観光スポット等への誘導ナビゲーションシステム（その他の事業⑨）やポータルサイト等（その他の事業⑪）と連携（リンク等）して観光客への情報発信力と利便性の強化を図る。					
評価指標区分：	コンテンツダウンロード数（掲載HPや動画共有サイトでの再生回数等）			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産紹介HP閲覧回数（PV数）					
目標値：	平成 31 年度	1,000 回	⇒	平成 35 年度	3,000 回	
事業⑥：	キャラクターグッズの開発（新たなものがたりを創出する事業）					
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 32 年度	
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	3,000千円	平成32年度：	0千円
（積算）			3,000千円×1式=3,000千円			
事業概要：	古墳や出土品を模したキーホルダーや、はにわの小型複製品、あるいは文房具などのサンプルを作成の上、権利を取得し、この場所ではか手に入らないキャラクターグッズを販売する機会を提供することにより、観光客の満足度を向上させるとともに協議会の安定財源とする。					
評価指標区分：	日本遺産に関する商品開発数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	サンプル商品の権利利用回数					
目標値：	平成 32 年度	0 件	⇒	平成 35 年度	5 件	
事業⑦：	古墳絵本の製作（新たなものがたりを創出する事業）					
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 35 年度	
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	6,000千円	平成32年度：	0千円
（積算）			2,000千円×3,000冊=6,000千円			
事業概要：	古墳や古墳時代を舞台とした当時の情景をテーマとしたものがたりを創作し、イラストレーターに委託して「こふん絵本」を作成、県内図書館などの施設で活用して、おはなし会や読み聞かせで活用。テーマとした番組などの放映につなげる。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	古墳絵本を活用したイベントの回数					
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 35 年度	200 %	
事業⑧：	ミュージカル連携公演（新たなものがたりを創出する事業）					
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 33 年度	
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	6,000千円	平成32年度：	6,000千円
（積算）			6,000千円×1式=6,000千円			
事業概要：	鹿児島県鹿屋市の古墳時代をテーマとしたミュージカル「ヒメとヒコ」。市内の高校生を中心に参加型ミュージカルを行ってこの事業と連携することにより、若年層から外国人観光客まで楽しめる古墳時代をテーマとした演劇を創出し、それを継続することにより新たなファン層を獲得する。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	文化会館等の施設利用者に対するアンケート調査での日本遺産認知度					
目標値：	平成 31 年度	100 %	⇒	平成 35 年度	150 %	
事業⑨：	ツアーパッケージの開発（ソフト的な環境基盤を整備する事業）					
事業区分：	普及啓発		事業期間：	平成 31 年度	～ 平成 32 年度	
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	5,000千円	平成32年度：	0千円
（積算）			5,000千円×1式=5,000千円			
事業概要：	商品開発可能性調査での分析をもとに、他の観光資源とあわせてアピールするための、モニターツアーを開催する。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数			（具体的な指標は次のとおり）		
具体的な指標：	日本遺産の構成文化財を旅する商品の数					
目標値：	平成 31 年度	0 本	⇒	平成 35 年度	10 本	

事業⑩：	スタンプラリー＆ウォークラリー（ソフト的な環境基盤を整備する事業）					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 30 年度	～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：	4000千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
（積算）	一式（3市町分）					
事業概要：	観光客の滞在時間を伸ばし、満足度を高めるため、構成文化財を巡り歩きながら、古墳景観を体感するイベントを実施する。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	スタンプラリー＆ウォークラリー開催数					
目標値：	平成 31 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	3 回	
事業⑪：	ボランティア養成講座（ソフト的な環境基盤を整備する事業）					
事業区分：	人材育成			事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：	1,000千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	0千円
（積算）	500千円×2会場					
事業概要：	市や町全体が観光客をもてなす機運を高めるため、住民が地元を訪れた観光客に日本遺産を説明・案内ができるよう、市民や町民に対する日本遺産の講座を行う。					
評価指標区分：	ガイド利用者数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	受講者が行ったボランティアガイドの活動件数					
目標値：	平成 30 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	100 回	
事業⑫：	日本遺産シンポジウム（ソフト的な環境基盤を整備する事業）					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	4,000千円
（積算）					2,000千円×2回	
事業概要：	日本遺産の深い魅力を発信するため、考古学者や観光専門家を招き、古墳群を考古学と観光の両面から魅力を探るシンポジウムを開催する。					
評価指標区分：	日本遺産の認知度				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	構成文化財所在市町の施設における認知度アンケート調査における認知割合					
目標値：	平成 32 年度	100 %	⇒	平成 35 年度	200 %	
事業⑬：	日本一の古墳景観を空から見る（ソフト的な環境基盤を整備する事業）					
事業区分：	普及啓発			事業期間：	平成 32 年度	～ 平成 32 年度
補助金額：	平成30年度：	0千円	平成31年度：	0千円	平成32年度：	6,000千円
（積算）					3,000千円×2市	
事業概要：	日本一の古墳景観である西都原古墳群や生目古墳群において、熱気球搭乗体験を実施し、古墳と地形が織りなすパノラマや台地に描かれたような古墳の広がり等を楽しむ事業である。					
評価指標区分：	日本遺産に関する旅行商品数				（具体的な指標は次のとおり）	
具体的な指標：	熱気球を利用した旅行商品の回数					
目標値：	平成 31 年度	0 回	⇒	平成 35 年度	2 回	

(7) その他事業

事業①：	みやざきの古墳保護・活用事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	平成 29 年度	～	平成 31 年度
事業概要：	新規発見の古墳や重要な価値をもつ古墳の調査を行い、国県指定措置等の価値付けを行うとともに、HPで成果公開を通じて魅力を発信する。		
事業②：	西都原古墳群調査整備活性化事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	平成 5 年度	～	平成 年度
事業概要：	構成文化財のひとつである西都原古墳群の構造解明や保存整備を進めるために必要な発掘調査や整備等の事業を行っており、平成5年度から継続的に実施している。		
事業③：	特別史跡「西都原古墳群」保存整備事業		
機関・団体：	都道府県	：	宮崎県
事業期間：	平成 5 年度	～	平成 年度
事業概要：	西都原古墳群の景観について維持管理や補修等を行うもの。平成5年度から継続的に実施している。		
事業④：	西都原花づくり事業（西都市）		
機関・団体：	自主事業	：	西都市
事業期間：	昭和 53 年度	～	平成 年度
事業概要：	四季折々の花々を西都原古墳群一帯に植栽し、古墳景観とともに観光客を魅了する。		
事業⑤：	西都古墳まつり		
機関・団体：	自主事業	：	西都市
事業期間：	昭和 62 年度	～	平成 年度
事業概要：	厳かな「たいまつ行列」や躍動感にあふれた「炎の祭典」など歴史と風土を生かした古代を体験できる祭りであり、多くの観光客をひきつける。西都市観光協会への補助事業。		
事業⑥：	記紀の道整備事業		
機関・団体：	文化庁以外の省庁	：	国土交通省
事業期間：	平成 18 年度	～	平成 年度
事業概要：	国土交通省の補助事業を受けた西都市が、構成文化財の一つである古墳への小径（「記紀の道」）を整備し、より親しみやすい空間に整備する。		
事業⑦：	世界遺産を目指して！みやざきの古墳魅力向上事業		
機関・団体：	自主事業	：	宮崎県
事業期間：	平成 30 年度	～	平成 34 年度
事業概要：	「西都原古墳群をはじめとする南九州の古墳文化」について、関係市町村と連携して調査研究し、文化庁に提出する提案書を作成し、世界遺産暫定リスト記載を目指す。		
事業⑧：	生目古墳群史跡公園整備事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	平成 10 年度	～	平成 年度
事業概要：	構成文化財の一つである生目古墳群を保存・活用していくため、計画的に発掘調査を実施して、報告書を作成し、古墳の復元や園路・サイン類の整備を行う。		
事業⑨：	生目古墳群史跡公園植栽管理業務		
機関・団体：	自主事業	：	宮崎市
事業期間：	平成 20 年度	～	平成 年度
事業概要：	多くの市民が訪れ、親しみやすい古墳群とするため、定期的に植栽管理する。		
事業⑩：	新田原古墳群整備事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	平成 9 年度	～	平成 年度
事業概要：	構成文化財の一つである新田原古墳群の保存整備に関する事業で、古墳の復元や園路・サイン等の整備を行うもの。平成30年度以降に第1期整備の第2段階に着手する予定。		
事業⑪：	新田原古墳群古墳祭		
機関・団体：	自主事業	：	新富町
事業期間：	昭和 5 年度	～	平成 年度
事業概要：	古墳に埋葬された人々を慰霊するために行われる祭典行事。保存会への補助事業。		
事業⑫：	蓮ヶ池横穴墓群保存整備事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	平成 23 年度	～	平成 33 年度
事業概要：	構成文化財の一つである蓮ヶ池横穴墓群の横穴及びその周辺の環境対策工事を実施し、適切な管理、活用を行う。		
事業⑬：	県内遺跡発掘調査事業		
機関・団体：	文化庁	：	文化庁
事業期間：	昭和 50 年度	～	平成 年度
事業概要：	埋蔵文化財や史跡の内容確認のための発掘調査や出土品の保存処理を行う事業。		

事業⑭：	市内遺跡発掘調査事業（宮崎市）		
機関・団体：	文化庁	： 文化庁	事業期間： 昭和 55 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	埋蔵文化財や史跡の確認調査や出土品の保存処理等を行う事業。構成文化財の一つである生目古墳群の調査や下北方地下式横穴５号の出土品の整理等も進めている。		
事業⑮：	市内遺跡発掘調査事業（西都市）		
機関・団体：	文化庁	： 文化庁	事業期間： 昭和 60 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	埋蔵文化財や史跡の確認調査を行う事業。		
事業⑯：	町内遺跡発掘調査事業(新富町)		
機関・団体：	文化庁	： 文化庁	事業期間： 昭和 54 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	埋蔵文化財や史跡の内容確認のための発掘調査を行う事業。構成文化財の一つである新田原古墳群の調査も進めている。		
事業⑰：	国民文化祭2020 宮崎大会		
機関・団体：	文化庁	： 文化庁	事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	宮崎県ではじめての国民文化祭。さまざまな文化交流事業を計画中であり、宮崎県が進めてきた記紀1200年記念事業の終期にあたる。古墳や他の文化財関連事業も実施予定		
事業⑱：	記紀編さん1300年記念事業		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎県	事業期間： 平成 24 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	記紀編さん記念事業を官民挙げて展開し、ブランドイメージの更なる浸透を図るとともに、次のステップとなる県外誘客につなげる。		
事業⑲：	ひなた文化資源発信事業（文化財で輝くふるさとづくり）		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎県	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	県内各地にある文化財の掘り起しと評価を進め、文化財と観光資源と連携させることで、新たなブランド化を図り、国内外への情報発信で観光客の誘導を促進するもの。		
事業⑳：	デジタルミュージアム構築事業		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎県	事業期間： 平成 14 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	宮崎県の文化、歴史遺産をデータベース化し、HP等を通じて広く情報発信する事業。日本遺産の構成文化財をはじめ、指定文化財や博物館情報の随時発信する。		
事業㉑：	博物館がやってくる！文化財活用推進事業		
機関・団体：	文化庁	： 文化庁	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	博物館等のアウトリーチ事業。来館が困難な地域や人が多く集まる場所等に移動展や移動講座を実施し、歴史に親しむ機会を増やすもの。		
事業㉒：	小学生向け副読本作成業務		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎市	事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	古墳や歴史を学ぶ小学6年生向けの副読本を作成し、生目古墳群や古墳全般について、社会科や総合学習で深い理解を促す。		
事業㉓：	古墳講座開催事業		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎市	事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	古墳に関する知識を高めるため、広く市民を対象とした古墳講座を開催する。		
事業㉔：	持続可能な地域づくり応援事業		
機関・団体：	都道府県	： 宮崎県	事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 33 年度
事業概要：	地方版総合戦略の的確な推進を図るために、ソフト・ハード事業等を支援する。		
事業㉕：	宮崎県市町村連携支援交付金交付事業		
機関・団体：	都道府県	： 宮崎県	事業期間： 平成 29 年度 ～ 平成 年度
事業概要：	市町村間で連携して行う地域課題解決のため、ソフト・ハード事業に関して宮崎県市町村間連携支援金からの交付金を交付するもの。		
事業㉖：	地域資源ブランド強化促進事業		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎県	事業期間： 平成 30 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	宮崎県各地の地域資源ブランドについて、ツール整備やプロモーション展開といった情報発信を進めるとともに、世界ブランド化に向けた支援を行うもの。		
事業㉗：	「神話のふるさと みやざき」魅力推進事業		
機関・団体：	自主事業	： 宮崎県	事業期間： 平成 28 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	宮崎県の観光誘致促進のため、古墳文化の魅力発信や女子旅のプロモーション、「県民大学」活動等を促進するもの。		

事業⑳：	共同観光宣伝事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	各種広域観光組織と共同で観光客誘致のための事業を促進。観光組織や協議会組織への負担金、地域インバウンド、情報発信、旅行商品造成、国内外での広報宣伝等の促進を進める。		
事業㉑：	東アジア等インバウンド推進事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	国際定期便のある、韓国・台湾・香港において本県の知名度向上強化と、東南アジア地域での観光誘致の取り組みを推進する。		
事業㉒：	東九州自動車道観光誘客加速化事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 28 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	東九州自動車道の開通を契機として、北部九州や中・四国地方をターゲットにした誘客活動と、隣県である大分県と連携した観光PR事業。		
事業㉓：	教育旅行誘致推進事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 30 年度
事業概要：	宮崎県の教育旅行（修学旅行）の受入れ促進と、そのためのセールスプロモーション活動や県内外の旅行会社との協働研究を進めるもの。		
事業㉔：	「日本のひなた宮崎県」国内誘客促進事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 27 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	「食」・「神話」・「体験型観光」といった本県の魅力や世界ブランド（世界農業遺産）を「日本のひなた宮崎県」のイメージを通じて情報発信する事業。		
事業㉕：	みやざきサイクルツーリズム推進事業		
機関・団体：	自主事業	宮崎県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	サイクルツーリズムのあり方のマーケティングにより、モデル事業を興し、誘客策として確立させる事業。		
事業㉖：	魅力ある観光地づくり推進事業		
機関・団体：	都道府県	宮崎県	事業期間：平成 29 年度 ～ 平成 32 年度
事業概要：	市町村や市町村観光協会、民間業者等で組織された協議会など、地域主導型の魅力ある観光地づくりの取り組みを促進する事業。		